

# アーチルニュース ちえなっぶ

発行元：仙台市発達相談支援センター 住所：仙台市泉区泉中央2丁目24-1  
TEL：022-375-0110 FAX：022-375-0142 e-mail：archi@luck.ocn.ne.jp

## 参加しよう！なかまといっしょに楽しもう！

仙台市発達相談支援センター所長 末永 カツ子

2月末の日曜日の午後、アーバンホテルでの当事者同士の交流会に参加し楽しいひとときを過ごしました。仕事を終えてからアーチルに月2回集う当事者たちが実行委員会を結成し、何度も話し合いをしながらプログラムをつくりました。当日は、なかまと一緒にゲームで歓声をあげ、歌をうたい、演壇へ掛け声をかけ、プログラムの時間配分など配慮しあう姿などもみられ、演壇もフロアも一体となった盛り上がりでした。

今回のちえなっぶは、この交流会も含め、成人式への参加、健康増進センターを利用した運動プログラム取材した内容を紹介します。今回の取材によって、誰もが参加できるはずのイベントやレクリエーション施設などを実際に利用するには、利用する側にも、利用される側にも、互いを理解しあうことや利用方法の工夫などの再調整が必要となることがわかりました。

仙台市体育館で行われた成人式には、9名の当事者が参加しました。何度か命の危機を乗り越え、20歳になった息子の参加のために実行委員会のメンバーとなったお母さんが、生涯学習課とアーチルをつなぎアーチル・ボランティアの協力を得ることにより実現したのです。運動プログラムは、4ヶ所の施設と増進センターの職員などの学習や協力によって12人参加しました。交流会には、なかまとのつながりを求める青年たちが関係者に自ら働きかけることによって100名の参加を得ました。

今回の取材を通して確認できたことは、一般のイベントやレクリエーション施設を積極的に参加・利用しようとの働きかけがあり、関係者間の連携・協力が得られ、利用できるための課題が解決され、参加が実現できるということです。参加への勇気を後押ししてくれる人がいることで、当事者側も新しいことにチャレンジでき、利用される側も積極的な参加意欲が届けられることによって、互いを結ぶネットワークができ、互いの理解が深まり工夫しあえるのです。利用する側・される側の両者の力があわさることによって、新たな可能性が広がるのですね。

アーチルで出会う多くの人たちが、趣味やスポーツなどリフレッシュできる場や、なかまと話し合う場・楽しめる場や機会を求めています。アーチルは、日々の相談や活動の中で、楽しみを求めている当事者と、当事者が利用したいと思う場・人とを結ぶことや、その機会をつくることを今後も心がけていきたいと思えます。

\*ちえなっぶは、CHIN UP「前を向いて」の意味です。

# なかまといっしょに！そして自分らしく…

アーチルでの知的障害者との出会いの中で、彼らは家庭と職場・施設の往復の生活以外に、アフターファイブや休日に本人たちが安心して楽しめる場所や機会が少ないこと、楽しみたいという気持ちはあるものの、ひとりだけではそれらを実現していくことが難しそうだとわかりました。

今回のちえなっぶでは、知的障害者自身が参加した行事・イベント・交流会の取材を通して、「どうすれば彼らが望む活動などに参加でき、生活が豊かになるのか」について考えてみたいと思います。

## 成人式に参加 ～母の想い・葛藤・そして感謝！！～

平成17年1月10日（月）、仙台市体育館での成人式に9名の知的障害者が参加しました。成人式に参加するのは当たり前と考えていた井上大樹さんと母親の澄子さんが20代の若者たちの「成人式実行委員会」に参加することにより実現しました。そこで井上澄子さんからのメッセージをお届けいたします。

【大樹が20歳になり成人式を迎えたことは、親としてひとつの区切り・節目を迎えたと思います。『しょうがい』を知って沢山のひとに支えられ、子育てしてきた母にはなによりのご褒美でした。母は仙台市の成人式に参加することこだわってきたので、大樹は母親に影響されたかもしれない。ただ一緒に成人式実行委員会に出席しているうちに自分もメンバーの一員と感じていたようで、現に実行委員会でも12人目の委員として暗黙の了解があったそうです。式当日は、アーチルボランティアの佐藤麻美さんとずっと一緒に、成人祭の時も母なぞ眼中になく、いろいろなブースを回りお祭りを楽しんでいました。式の最後、一本締めめのステージから彼らを見たのですが、そこに一緒にいることが当たり前で自然に感じられました。晴れ姿は涙で少し歪んでいましたが、母は一生忘れない。みんなも成人祭を自由にエンジョイしていたと感じたのは私だけでなく、一緒のお母様たちも嬉しそうで、会場で場を共有できたことを喜んでいました。『少し離れたところで見守る』このスタンスが良かったですね。わからないと不安ですが、親も子も見えることで安心できたと思います。分けるのではなく『どうすれば一緒に成人式ができるのか』を考えていくことで答えが見つかるように思いました。



当日はとても嬉しいことがありました。式で新成人の「誓いの言葉」があ（大樹さんとアーチルボランティア麻美さん）りましたが、当日まで手話で行うことはわかりませんでした。ぎりぎりのところで打ち明けられて「やった！」と思いました。数日後の反省＆打上げの時に、手話をした高橋望美さんが「井上さんが頑張っているの、自分もなにかしなければ」と手話を考えたと話してくれました。委員会の中でもなかなか思いが伝わらなかったり、見えなかったの、これはめっちゃ嬉しかったです。最後の最後に若者の気持ちもわかり、話をしなければダメなのだ実感したので、これからは機会があれば出来る限り話をしていこうと思いました。】



（記念シールをもらっている所です）（プリクラで写真を撮っている所です）

# うんどうって楽しいかも？楽しく身体を動かしてみました！！

肥満傾向に陥りやすい知的障害者が多く見られます。アーチルでは、今年度6月から12月まで、障害者更生相談所と共に地域リハビリテーション事業の一環として、健康増進事業を行いました。生活習慣病の予防・運動習慣の獲得等を目的に、本人たちが楽しめる運動プログラムを健康増進センター職員・施設職員と一緒に考え実施しました。

ダイエットできたかな。きもちいい。  
(47歳 女性)

運動に来ることを楽しみにする方が増えていたようですよ  
(通所施設職員)

身近に運動ができる環境と支援者がいると、地域に密着したサポートができるんだけれど。



(健康増進センターフィットネスルームにて)

運動は疲れたけれど、色々な人と話ができ楽しかった。  
(21歳 女性)



(健康増進センター職員)

とまどうことはありましたが、慣れると一緒に楽しめました。

## 交流会 ~わたしたちのはじめての企画！！~

平成17年2月27日(日)三井アーバンホテルにて、アーチルの成人グループ(たんぼぼグループ)に参加している知的障害者が中心となり、実行委員会形式で交流会「ふれあい・広がる・友情(交流会)」を開催しました。



(交流会当日の様子)

できるかな..少し不安?

ゲームは何かいい?じゃんけんゲーム?

ゲームやお話で盛り上がりがあった。お友達もできそうです。



(実行委員たちの話し合い)



(市役所での広報活動)

ぜひ、参加してください。一生懸命に考えました。楽しい交流会になるとと思います。

「成人式」・「運動プログラム」・「交流会」の取材を通して、知的障害者は「一緒に楽しめるなかま」がいれば、既存のイベントや施設の参加・利用でき、さらには自らも交流会を企画・実行できることがわかりました。彼らはなかまとの交流の中で、生き生きと自分らしく輝いていました。彼らの生活がより豊かになっていくためには、支援する側と支援される側という分け方ではなく、共に考え、共に悩み、そして共に楽しめるなかまが必要だったのです。アーチルでは、知的障害者の生活がより豊かになっていくことを目指して、本人・家族、ボランティア、関係機関等とネットワークを立ち上げ、障害の有無に関わらず、自然な関係で一緒に楽しめるなかまの輪を少しずつ広げていきたいと考えています。

# かけはし

「アーチル」とは「アーチ (arch: 橋)」と「パル (pal: 仲間)」とをかけたもので、センターが障害者と市民の「架け橋」になるようにとの願いを込め、市民公募によってつけていただいた愛称です。このコーナー「かけはし」は、読者の皆さんとアーチルが双方向で情報交換できるよう、皆さんや職員からのメッセージなどを掲載していきたいと思っております。



## アーチルボランティア

私たちは、アーチルで開催したボランティア養成講座を受講後、活動をしています。主な活動は療育グループに来ている兄弟の託児とおもちゃづくりです。できる時間にむりせず楽しく活動しています。

児相の親子教室に通ってました。あの頃、下の娘を見てくれるボランティアさんが居てくれたらもっといっぱい先生と話せたのになと思います。楽しい1日が待ちどおしい。

いつも、こちらが楽しい気持ちをもって帰ります。私が関われるのは少しの時間ですが、日々成長するお子さん達のそばにいると元気になります。

ボランティアしているつもりが、されている気がします。それが長く続けるコツかも・・・

声



最近完成した子どもたちも大好きな「手作りおもちゃ」かわいいでしょ

### 平成 16 年度アーチル療育セミナー

#### 共通テーマ

『自閉症児・者の地域生活支援のあり方を考える』

#### 第1回「自閉症とともに生きる」

平成 16 年 8 月 28 日 (土) 参加者: 477 名

講師: 川辺哲氏 (保護者)、高橋脩氏 (豊田市子ども発達センター所長)、服巻智子氏 (それいゆ相談センター所長)

#### 第2回「各ライフステージに求められる支援」

平成 16 年 12 月 11 日 (土) 参加者: 375 名

講師: 藤原靖氏 (保護者)、関水実氏 (横浜自閉症支援室長)、新澤伸子氏 (アクト大阪所長)、中島洋子氏 (おかやま自閉症・発達障害支援センター所長)

#### 第3回「地域でのくらしを支えるネットワーク構築をめざして」

平成 17 年 2 月 13 日 (日) 参加者: 265 名

講師: 日置真世氏 (NPO 法人地域生活支援ネットワークサロン事務局代表)、高橋和俊氏 (小児科医)、徳川直人氏 (東北大学助教授)、伊藤あづさ氏 (自閉症ピアリンクセンター ここねっと設置準備会)、黒澤哲氏 (仙台 YMCA)

多数の皆様にご参加いただきありがとうございます。

本人と家族が安心して地域でくらしが出来るためには、特徴に合わせた一貫した支援とこれを支えるネットワークづくりが大切であることがたくさんの方達と一緒に確認できました。次年度は自閉症児・者が地域でくらすための課題について、テーマを掘り下げて実施していく予定です。ご期待ください。

### my サポートファイル

#### 「I will アイル」誕生

「アイル」は「私らしく」生きたい!

それを実現するために本人、家族、サポーターが出会う人につなぐファイルです。保護者の方による実行委員会で作上げた宝物です。

この3月にアーチルの初期療育を終了し、ファイルを持つことを希望する方々からもっていただくこととなります。



アイル



話し合いの風景

#### 編集後記

今年度最終号として、「なかまといっしょに!そして自分らしく」をテーマに、輝いている当事者を紹介しました。皆さんも、なかまの一人として活動に参加してみませんか。ちえなっぷは今後も相談者の声やメッセージを発信していきたいと考えています。楽しみにしてください。(佐藤)